

進む平和活動の共同、無理のない行進者が次々に参加

高松からの応援参加も平和クリニックの1人だけと行進参加数の心配を持ってフェリーを下船。しかし小豆島の参加者を見て、心配が吹っ飛びました。

鍋谷さんは、行進日和になったと切り出し、戦争への危険に踏み込んだ岸田内閣を批判。くれぐれも事故のないようにと挨拶。小豆島原水協の明田さんが、大江正彦小豆島町長のメッセージを代読。大江町長は日頃の小豆島町での平和活動に敬意を表し、「恒久平和」と「核兵器の廃絶」は人類共通の願いであり、町としても志を同じくしていると強調。名誉町民壺井栄さんの平和を希求した伝統を引き継いでいこうと締めくくりました。

行進横断幕は福本耕太さんと、もう一人は？と言うと手を挙げたのが、立憲民主の鈴木美香土庄町議でした。この方は今年2期目の議員さんで、中央の動きに怒っているとのこと。なれそめは毎月19日行動に共同で行うことで親しくなったとのこと、小さな島の大きな共同に頭が下がりました。また参加者は二本杖で途中まで汗びっしょりの中井さんと股関節手術した2人がいなくなると、2人が途中から参加。これが「一歩でも」の神髄とうれしくなりました。また長靴をはき一輪車を運んでいた人に声をかけたり、交差点に座って待っていた方とはしばしの井戸端（会議）も始まります。

ほんとうに、ほっこりした行進となりました。小豆島はいま花盛り、歩道の民家の前は名前の知らない花々がそれぞれの色で存在を競っていました。予定時間2分前に到着しました。

お疲れ様でした。



池田港での出発集会



小豆島町蒲生地区にある看板下の
アジサイ